

民主こうべ政策議員団 News

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 / TEL:078-322-5844 FAX:078-322-6161

平成26年第1回定例会(2月19日～6月26日)が開会され、2月議会が始まりました。平成26年度当初予算並びに関連議案について、民主党神戸市会議員団を代表して、川原田弘子議員が市長・副市長に対して代表質疑を、各局に対する質疑を行う予算特別委員会を経て、川内きよなお議員が総括質疑を、池田りんたろう議員が一般質問を行いました。

平成26年第1回定例会 2月議会 代表質疑

医療産業都市・創薬拠点について

Q 「創薬拠点」の整備について、国家戦略特区の中での位置づけと、どのような設備か？また、エクサスケールスパコンに対する計画は？

A 国家戦略特区において、スパコン「京」やSpring8(スプリング8)、SACLA(サクラ)などを活用することにより、早期に低コストで「革新的医薬品」を開発・生産することができる技術基盤の確立を提案している。現在、企業進出が進み、製薬企業が入居するラボが少なくなっているため、ラボビルとして整備する。

平成26年度の国の予算に次期スパコンとして12億円計上された。理化学研究所計算科学研究機構より、開発に向けた支援要請も受けており、神戸での立地におおいに期待したい。このラボビルにエクサスケールスパコンの研究開発チームの入居も想定している。

※エクサスケール・スパコン…エクサは、京の100倍の単位。スパコン「京」の100倍程度の早さのスパコンの開発を目指す。

メリデン・ファミリープログラムについて

Q メリデンファミリープログラムは、イギリスで進められている精神疾患の治療方法のひとつ。効果も高いので神戸でモデル導入してはどうか？

A 本人と家族を支援する方法と聞く。家族と共に学ぶことで再発のサインを共有したり、回避方法を相談するなどの手法であり、近年注目されている。まずは、研修会に専門職員を参加させ、見識を深めてから導入について検討したい。



学校図書館の活用による読書推進について

Q 今年度、専門司書が30校に導入されることとなり、大変期待している。まずは、子ども達や先生とのコミュニケーションを築いて、授業や学校生活に溶け込ませることが必要。研修と一緒に話し合う時間も必要ですが？

A 学校図書館には、読書センター、学習・情報センターのほかに、児童生徒の心の居場所の役割がある。学校司書が常時図書館にいて、いつでも図書館を利用でき、読書相談ができる。また、「図書館の先生」として児童生徒を見守ってくれる。司書には配置後も研修を行い、学校司書同士のつながりも作る。配置校には校長などに学校図書館の機能などの研修を行う。読書に親しむことで豊かな人間性を育んでいく。



副議長
さきもと 祐治(須磨区)



伊藤めぐみ(北区)



平木ひろみ(中央区)



川内きよなお(垂水区)



大井としひろ(須磨区)



たじ裕規(灘区)



副政調会長
人見誠(北区)



副幹事長
大寺まり子(兵庫区)



相談役
藤原武光(垂水区)



政調会長
岩田よしあき(西区)



幹事長
川原田弘子(垂水区)



団長
池田りんたろう(北区)

皆様へ

このたび、民主党に所属する左記メンバー12名で、政策調査活動に、より重点をおいた活動を行うため、新しい会派「民主こうべ政策議員団」を結成いたしました。変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

総括質疑



国際戦略を担う組織・人員体制について

- Q** 世界的な都市間競争が激化する中、真の国際都市として神戸が更なる発展を遂げていくためには、全市横断的に国際戦略に取り組むことができる組織・人員体制の構築が不可欠であると考えますが？
- A** 国際的な視点を持った人材育成に力を入れていく。平成26年度は、英語だけで議論する政策討議をやっていき、さらに語学力を磨くといった人材育成を積極的に行っていく。

災害時要援護者支援対策について

- Q** 災害時要援護者支援については、取り組みが進められている地区が極めて少ない状況である。地域へのレクチャーの強化や働きかけの方法の見直しなど、今まで以上に行政によるサポートを充実させるべきと考えますが？
- A** 先行している地区を参考にしながら、他地域への講師派遣や区からの事例紹介を積極的に行い、具体的な取り組みにつなげていきたい。

小学校における乳幼児とのふれあい学習について

- Q** 小学校における乳幼児とのふれあいについては、こどもたちが自然な親子の姿を見たり、出産の話を聞いたりすることで、命の大切さを学ぶことのできる貴重な経験の場となっているが、学校側の自主的な取り組みという位置づけのもと、約1/3の小学校でしか実施されていない現状である。市内全校への展開を図るべきと考えますが？
- A** 小学生にとって「命の感動体験学習」は大変有意義な活動であり、教育委員会としても今後も協力して推進していく。NPOの活用については、現在の実施校におけるプログラムの内容・回数・活動費等、成果や課題を検証しながら、今後のあり方について研究していく。

一般質問

北神急行電鉄について

- Q** 現在は神戸市も運賃引き下げのための補助を行っているが、今後は北区のまちづくりと市民の利便性を向上するため、もう一步踏み込んだ施策を行うべきと考える。例えば北神急行電鉄の買収を検討する等、運賃低減化を図ってはどうか？



- A** 継続して北神急行の運賃を維持することが重要と考える。平成26年度以降、神戸市、兵庫県、北神急行、阪急等で会議を立ち上げ、北神急行の自助努力、阪急の支援効果を確認・検証していき、その上で中長期の視点で検討していきたい。

通学定期券の割引率について

- Q** 市営地下鉄の通学定期割引率は60%で、割引率78.5%の阪急をはじめ、JR・阪神などと比べて最低である。この割引率を見直し、市民負担を軽減すべきと考えるが？
- A** 割引率の引き上げは大きな減収となり、システム変更等経費もかかり、事業者との調整も必要となる。課題は大きいですが、他事業者の事例も参考に割引率の見直しを検討していきたい。実施時期は公立高校学区再編等もあり平成27年10月頃を目途と考えている。

「英国メリデン版訪問家族支援技術 紹介セミナー」

平成26年3月3日(月)神戸市教育会館において、エビデンス(検証結果)に基づいた全年齢層の家族支援を提供することにより、精神健康問題を抱える本人の再発率、再入院率を抑制する効果が高い「英国メリデン版訪問家族支援技術(以下、メリデン家族支援)」を神戸で紹介する目的でセミナーを開催した。

今回は所長と次長、家族としてこのメリデン家族支援を受け、現在職員として働く当事者家族の声も聴くことが出来た。家族会会員、看護師、行政、一般の方など約70名が参加された。質疑応答では「それでも病気は治らない」という家族の声に「治すのではなく関わっている人が対応でき、ストレスがなくなるようにすることが出来る」「本人も家族である私も人生がよくなった」「薬物療法でないで副作用がなく、試してみる可能性があるはず」との答えだった。諸機関と連携し、本市での導入を検討したい。



～ 平成26年度 当初予算 ～

平成26年度予算は、「輝ける未来創造都市の実現」に向けた予算が組まれました。

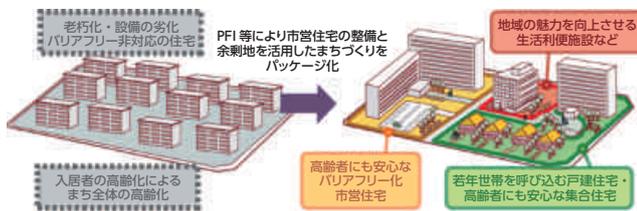
「神戸の元気創造予算」と銘打たれた予算は、平成5年度以来、21年ぶりに要求額の上限を設けず、各部局が真に必要な額を要求し、財源状況を勘案しながら施策の優先順位が検討されました。また部局横断的な政策課題については、関係部局が合同で予算要求を行うという画期的な方法が取られました。

一般会計:7,070億5,439万円(前年△30億9,000万円)

市民が元気で働ける にぎわいのある街の実現

・計画的開発団地のリノベーション

- ①近隣センターリニューアル事業等
- ②若年世帯誘致リモデル事業
- ③民間活力を活用した市営住宅建替



世界に誇れる夢のある街の実現

- ・三宮周辺地区の再整備

フラワーロード光のミュージアム

フラワーロードのシンボルである「花」「緑」「彫刻」などの資源をLED照明により効果的にライトアップ



市民が地域とつながり 福祉と医療をはじめ 安心してらせる街の実現

・介護予防の充実

- 民間事業者と連携した魅力的な介護予防事業
- 介護予防給付の見直しへの対応



安心して子育て・教育ができる 街の実現

・妊娠・出産・子育てへの支援

- 乳幼児等・こども医療費負担軽減施策の拡充
 - ・ 外来の自己負担金の軽減策 (3歳～中学3年生まで1日500円上限)
- 妊婦健康診査助成の拡充 88,000円⇒98,000円
- 産後ケア事業
- 中学生への妊娠・出産についての啓発強化
- 望まない妊娠等に関する相談窓口 (仮称)「妊娠SOS」の設置



本物の市政改革をすすめ 新しい地方自治が始まる街の実現

・広報・広聴機能の充実

- 発信力の強化
- 直接対話の機会を充実
 - ・ 対話フォーラム
 - ・ 大学生との円卓会議
- 幅広い広聴手段
 - ・ ネットモニター

・保育所待機児童の解消

- 保育枠約1,400人分の拡大
 - ・ 保育所整備 (940人(繰越含む))
 - ・ 小規模保育事業の拡充 (30か所 450人)
- 保育士確保対策
- 保育サービス
 - ・ コーディネーターの配置

